

株式会社 日高振興公社

決算書類

第 31 期

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

株式会社日高振興公社 第31期 事業報告

1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済をみると、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ移行（2023年5月）した後、人流・消費が本格的に回復したものの、海外景気の下振れや物価上昇の継続が個人消費に与える影響に十分注意する必要性がありました。また、賃金の伸び率が物価上昇に追いつかない状況で人手不足やエネルギー価格の高止まりが続き、コスト管理が経営の大きな課題となりました。

令和6年度の神鍋高原の夏季観光客の入込状況は、前年度に比べて、お盆期間に台風の影響を受けず、約14万6千人（前年度約13万3千人）、前年度比110%となりました。さらに、冬季は降雪に恵まれ、神鍋高原スキー場は約9万6千5百人（前年度約3万8百人）、前年度比313%となりました。弊社の12月から3月までの総売上は、7,187万円（前年度5,449万円）、前年度比132%となりました。また、経済支援クーポンは481万円（前年度107万円）、前年度比450%となりました。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、取り組んで参りました。

従業員の職務能力向上を図るため、兵庫県内の道の駅や直売所の意見交換や経営コンサルタントによるアドバイス、山陰海岸ジオパーク内の地元企業・高等学校・生産者等との連携強化により、店舗展開（集客・客単価アップ）や「個性ある道の駅づくり」のための研修を行いました。

また、毎月開催している定例会議では、部門ごとに経費実態（部門別管理表・ランニングコスト推計表等）を月次検討し、部門別の課題の抽出を行いました。

さらに、イベント計画・商品開発・設備投資計画等、勉強会を適時実施しました。特に、当事業年度は経費削減、労務改善（就業規則・賃金等）の実施、改修工事に向けた運営等の検討についても全従業員で取り組みました。

○来客数

道の駅「神鍋高原」	121,600人	（前年度比：109%	9,942人）
神鍋温泉ゆとろぎ	62,952人	（前年度比：121%	10,839人）

結果、当事業年度における業績は、

売上高	230,714千円	（前年度比：121%	40,819千円）
営業利益	2,871千円	（前年度比：—%	10,532千円）
経常利益	5,000千円	（前年度比：—%	10,972千円）
当期純利益	4,788千円	（前年度比：—%	10,971千円）

となりました。

(1) 道の駅「神鍋高原」

① 売店部門

当事業年度も物価高騰による価格改定が続き、さらに、年平均気温は全国的にかなり高く、西日本でも記録的な高温となりました。但馬・神鍋高原でも農作物の不作等、特産品の品揃えにも大きな影響がでました。

一方で、兵庫県が家計応援キャンペーンのはばタン Pay、豊岡市が前年の雪不足による宿泊事業者向け神鍋応援クーポンを実施する等、経済支援クーポンは 3,901 千円（前年度比 517%）となり、大幅に増加しました。

情報発信として、テレビでは、5月に朝日放送「千鳥の相席食堂」で神鍋高原キャベツを紹介してもらい、7月に eo 光テレビ「ぷらっと旅気分」でキャベツを含めた特産品を紹介していただきました。

商品開発として、7月に自社製造の味噌使用「日高みそナッツ煎餅」、1月に但馬のはちみつ使用「はちみつフィナンシェ」、出石そば製造所にて「神鍋高原田舎蕎麦」や5月からは近隣の宿泊施設のお茶請け用「神鍋高原瓦せんべい」を販売するなど自社製品が好調でした。また、9月は神鍋新米フェア、10月は豊岡ぶどうフェア、3月は発酵食品フェアを実施し、地元農産物・特産品の宣伝販売を実施しました。

新たな取り組みとして、7月・8月週末限定で神鍋高原朝市を開催し、宿泊客等で賑わいました。また、現金以外の決済方法として、2023年12月に導入した QR 決済では、PayPay 利用額が 17,790 千円、前年度比 568%と、年間を通じて大変多くの利用がありました。

さらに、下記の商品を道の駅「神鍋高原」のおすすめ商品と位置付け、ポスターや SNS 等と連動し、他店舗との差別化を図りました。

○ほんまもん神鍋	年間販売数：13,151 個	売上金額：9,206 千円
○自社開発商品	年間販売数：9,052 個	売上金額：4,666 千円
○キャベツ	年間販売数：7,050 個	売上金額：1,824 千円
○豊岡ぶどう	年間販売数：5,380 個	売上金額：3,511 千円
○但馬のはちみつ	年間販売数：1,546 個	売上金額：1,661 千円
○するめ・サーモン糍漬	年間販売数：1,311 個	売上金額：1,684 千円
○コウノトリ育むお米	年間販売数：1,193 個	売上金額：2,223 千円

※年間販売数量の多い順番に並べています。

② 飲食部門

当事業年度も原材料費の高騰による価格転嫁の難しさの中で、平日は月替わりメニュー、土日祝日はランチビュッフェの 2 本柱で販売を展開しました。また、経営改善の為、コンサルタントの指導により、料理内容及び仕入れの見直し、客単価や粗利益率の向上を図りました。

平日の利用促進として、年間を通じて月替わりメニューを販売し、農産物直売所ふれあいふぁーむの野菜を中心とした野菜カレー、麻婆ナス定食、おでん定食などを展開しました。喫茶メニューの改善を目的として、夏季限定でふわふわかき氷の販売や山陰海岸ジオパーク内にあるヒラヤミルクを使用したソフトクリームの販売を開始しました。

土、日、祝日のランチビュッフェは売上客数ともに順調に推移し、客数 16,802 名（前年度比 112%）、売上金額 21,092 千円（前年度比 122%）となり、前年度より客数 1,775

名増加、売上金額 3,792 千円増加となりました。また、今期はGW期間（4月27日から5月6日）の10日間、夏休み・お盆期間（8月3日から18日）の16日間に開催し、長期休暇の顧客満足度向上に努めました。

季節限定のイベントとして、7月・8月に「全但バス神鍋線利用促進イベント」の「神鍋 BeerNight」を開催し、客数 271 名、売上金額 842 千円の利用がありました。2月の節分には前年好評の神鍋清流サーモンを使った恵方巻を 147 本販売し、大変好評でした。

新たな取り組みとして、7月に漬物製造業の許可を取得し、製造した漬物はランチビュッフェや売店販売を行いました。12月から2月の毎週土曜予約限定で但馬産鴨肉を使用した鴨鍋ディナーを開催し、マリオットホテルの宿泊客やスキー客等で賑わいました。

広報として、HP・SNS等の発信強化やデジタルサイネージによりメニュー紹介、新紙幣に対応したタッチパネル式券売機を導入し、利用者の利便性向上に努めました。

1年を通して、季節感、イベント感をテーマに、アンケートなどを定期的に行い、サービス面の強化に結びました。

（2）神鍋温泉ゆとろぎ

当事業年度は、衛生管理を徹底し、大事故もなく、通常営業をすることができました。入館者はスノーシーズンが好調であり、売上金額 49,474 千円、前年度比 130%、11,617 千円と大きく増加しました。

当年度も物価高騰により、経営を圧迫していた燃料費を削減する為、木質ペレットの使用量を増やしましたが、相次ぐ故障により、ガス利用量が増え、結果的に燃料費が 8,000 千円、前年度比 118%、1,240 千円増加しました。さらに水道光熱費・衛生費が 10,543 千円、前年度比 107%、672 千円増加しました。

スキー場は前年に比べ積雪量も多く、営業日数 81 日（前年度比 261%）となり、「スキーリフト券利用者割引」の利用者も 6,238 名（前年度比 290%）と前年より大幅に増加しましたが、グリーンシーズンの「神鍋高原キャンプ場利用者割引」は 6,165 名（前年度比 103%）と僅かに利用者が増えました。また、隣接している「フェアフィールド・バイ・マリオット・兵庫神鍋高原利用者割引」は 1,954 名（前年度比 223%）となり、1月から3月のスノーシーズンに利用者が増加しました。定番の「JAF カード会員割引」7,298 名（前年度比 116%）、「あいカード会員割引」4,570 名（前年度比 119%）など、提携した割引サービスには一定の効果がありました。

入浴以外の売上金額は 5,599 千円、前年度比 152%、1,920 千円増加しました。新たな取り組みとして、6月から休憩スペースの一角に、体をほぐすリラクゼーションコーナーを設置し、売上金額 1,442 千円の利用があり、新規顧客やリピーターの獲得に繋がりました。

露天風呂について、毎月、四季を楽しむ季節湯を実施し、4月には但東チューリップまつりと連携したチューリップ湯、7月には神鍋ミント湯、12月にはゆず湯などを開催しました。また、客単価アップを目標に湯上り後の飲食に力を入れ、ヒラヤミルク、城崎ジェラートを中心に他県からの来客向けの附帯販売に力をいれました。3月は特別回数券の販売など、常連客やサウナで利用者が多い若者の利用促進につなげました。

決 算 報 告 書

第 31 期

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月 31日

株式会社 日高振興公社

兵庫県豊岡市日高町栗栖野 59-13

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 日高振興公社

令和 7年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 40,043,220】	【流動負債】	【 20,545,785】
現金及び預金	33,339,415	買掛金	1,674,126
売掛金	2,858,904	受託未払金	4,534,141
商 品	796,938	未 払 金	10,411,445
原 材 料	556,146	預 り 金	146,873
貯 蔵 品	399,748	預 り 敷 金	100,000
未 収 入 金	2,092,069	法人税等充当金	212,000
【固定資産】	【 4,103,876】	未払消費税	3,467,200
(有形固定資産)	(2,970,459)	負債の部計	20,545,785
建 物	2,072,066	純資産の部	
建物附属設備	427,755	【株主資本】	【 23,601,311】
車両運搬具	2	[資 本 金]	[36,000,000]
工具器具備品	209,406	[利 益 剰 余 金]	[Δ12,398,689]
一括償却資産	261,230	利 益 準 備 金	9,000,000
(無形固定資産)	(983,417)	(その他利益剰余金)	(Δ21,398,689)
ソフトウェア	983,417	繰越利益剰余金	Δ21,398,689
(投資その他の資産)	(150,000)	(うち当期純利益)	(4,787,964)
保 証 金	150,000	純資産の部計	23,601,311
資産の部計	44,147,096	負債・純資産の部計	44,147,096

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 6年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 7年 3月31日

科 目	金	額
【売 上 高】		
売 店 売 上	142,983,076	
市事業委託料等	4,467,152	
レストラン売上	33,789,867	
温 泉 売 上	49,474,170	230,714,265
【売 上 原 価】		
期首棚卸高	1,440,418	
仕 入 高	103,711,148	
材 料 費	12,677,347	
合 計	117,828,913	
期末棚卸高	1,353,084	116,475,829
売上総利益		114,238,436
【販売費及び一般管理費】		111,367,086
営業利益		2,871,350
【営業外収益】		
受 取 利 息	7,226	
雑 収 入	2,121,487	2,128,713
経常利益		5,000,063
税引前当期純利益		5,000,063
法人税等充当額		212,099
当期純利益		4,787,964

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 6年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 7年 3月31日

科 目	金 額
役員報酬	5,391,000
給料手当	31,553,364
福利厚生費	6,519,097
雑給	11,190,171
シルバー委託費	2,254,000
広告宣伝費	3,158,773
運賃	85,270
外注費	936,262
燃料費	8,266,588
衛生費	5,649,611
業務委託費	2,700,000
一括資産償却費	211,228
水道光熱費	13,735,897
会議費	66,837
事務費	1,723,349
消耗品費	3,881,778
地代家賃	50,100
支払保険料	617,880
修繕費	1,583,610
租税公課	5,793,150
減価償却費	833,166
接待交際費	400,091
旅費交通費	146,606
通信費	334,454
支払手数料	3,087,874
貸借料	439,246
諸会費	516,815
購読費	57,217
雑費	183,652
合 計	111,367,086

株主資本等変動計算書

株式会社 日高振興公社

(単位：円)

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月31日

	株 主 資 本					自己株式	株主資本計 合	評価・換算 差額等合計	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本準備金	その他 資本剰余金	利益準備金	その他 利益剰余金					
当期首残高	36,000,000			9,000,000	△26,186,653		18,813,347			18,813,347
当期変動額										
当期純利益					4,787,964		4,787,964			4,787,964
当期変動額合計					4,787,964		4,787,964			4,787,964
当期末残高	36,000,000			9,000,000	△21,398,689		23,601,311			23,601,311

	利益剰余金の内訳		
	利益準備金	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	9,000,000	△26,186,653	△17,186,653
当期変動額			
当期純利益		4,787,964	4,787,964
当期変動額合計		4,787,964	4,787,964
当期末残高	9,000,000	△21,398,689	△12,398,689

個 別 注 記 表

自 令和 6年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 7年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品・貯蔵品……最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に

取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産……定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理……税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……38,882,917円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数……720株

当事業年度末日における自己株式の数……0株

4. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額……32,779円59銭

1株当たりの当期純利益……6,649円95銭

2 事業実績

(1) 事業別の売上高 (単位：千円)

施設名	売店部門	飲食部門	温泉部門	市受託料	合計
道の駅「神鍋高原」	142,581	33,790		3,714	180,085
神鍋温泉ゆとろぎ			49,516		49,516
農産加工所	360			753	1,113
合計	142,941	33,790	49,516	4,467	230,714

(2) 売上高の推移 (単位：千円)

区分	第27期	第28期	第29期	第30期	第31期
売店部門	113,343	107,367	117,447	117,441	142,941
飲食部門	17,835	21,622	24,576	30,270	33,790
温泉部門	33,477	39,483	37,343	37,857	49,516
市受託料	3,969	4,024	4,227	4,327	4,467
合計	168,624	172,496	183,593	189,895	230,714

(3) 営業成績、財産状況の推移 (単位：千円)

区分	第27期	第28期	第29期	第30期	第31期
経常利益	3,592	2,302	△2,266	△5,972	5,000
当期純利益	3,304	1,572	△2,476	△6,183	4,788
総資産	70,317	72,338	70,580	35,207	44,147
純資産	25,901	27,472	24,996	18,813	23,601

3 当社の現状

(1) 資本金の推移

(単位：千円)

区分	当期末	前期末	増減
資本金	36,000	36,000	0

(注) ① 平成6年4月28日

発行株式数 600株 1株につき50,000円

② 平成6年8月11日

発行株式数 120株 1株につき50,000円

(2) 株式の状況

① 株式数(発行済み株式の総数) 720株

② 当期末株主数 13名

(3) 従業員の状況 (令和7年3月31日現在)

(単位：人)

区 分	当期	前期末	増減
男 性	6	6	0
女 性	16	17	△1
合 計	22	23	△1

(4) 業務の状況

施 設 名	業 務 内 容
道の駅「神鍋高原」	売店(農産物直売所含む)、レストランの経営管理
神鍋温泉ゆとろぎ	温泉入浴の経営管理
農産物加工所	特産品の加工及び施設管理

(5) 取締役ならびに監査役

	会社における地位	氏 名	重要な兼職の状況	任 期
1	代表取締役	岡 森 且 哉		令和7年6月
2	専務取締役	池 田 敬 一		令和7年6月
3	取 締 役	柳 沢 和 男	豊岡市日高振興局 局長	令和7年6月
4	取 締 役	西 田 清	たじま農業協同組合 理事	令和7年6月
5	取 締 役	村 上 勝 幸	豊岡市商工会日高支部 支部長	令和7年6月
6	取 締 役	岡 藤 泰 明	日高神鍋観光協会 会長	令和7年6月
7	監 査 役	米 田 紀 子	豊岡市観光文化部 豊岡市民会館 館長	令和7年6月
8	監 査 役	玉 置 孝 至	但馬銀行日高支店 支店長	令和7年6月

4 対処すべき課題

当社は、以下の点を主な経営課題と捉えております。

- ① 累積欠損金の解消
- ② 働き方改革と人材育成
- ③ 粗利益率向上
- ④ インバウンド誘客と創生連携
- ⑤ 老朽設備の計画的更新

【第32期事業計画案(2025年度)】

基本方針

- 「収益性重視」への転換
- 「繁閑差の平準化」への挑戦
- 「設備・IT投資による生産性向上」
- 「地域・観光資源を活かした商品力強化」

目標数値(KPI)

指標	目標値	備考
売上高	2億4,000万円(前年比104%)	売店・レストランで客単価向上、温泉部門集客強化
売上総利益率	52%以上	商品ミックス最適化と原価管理強化
営業利益率	5.0%以上	コスト最適化と客単価UP
経常利益率	5.5%以上	営業外収益(ふるさと納税・WEB販売)拡大
人件費率	22%以下	労働生産性向上(1人当たり売上UP)
販管費率	40%以下	光熱費削減・販促費効率化

主要施策

【I】売上拡大戦略

(1) 売店部門

- 地元食材を使ったオリジナル「ご当地商品」5品開発(高粗利率60%以上)
- お中元・歳暮商戦強化(ギフトカタログ制作)
- PB(プライベートブランド)比率25%へ拡大
- SNS・ECサイトでの事前予約販売システム開始

(2) レストラン部門

- 付加価値型セットメニュー導入(+小鉢・デザートセットで単価UP)
- 地元食材フェア毎月開催(例:夏は但馬牛、冬は鴨鍋フェア)
- 平日限定で旅行会社、バス会社向け企画商品「体験+温泉+食事プラン」販売

(3)温泉部門

- ・ サウナのPRで若者を取り込む
- ・ 団体向け貸切プラン設定(学校合宿・企業研修ターゲット)
- ・ マッサージサービス本格展開

【Ⅱ】コスト最適化戦略

- ・ 省エネ設備(ボイラー・LED照明)更新:光熱費5%削減目標
- ・ シフト制再編(AI勤怠システム導入検討)
- ・ 勤務時間の短縮・ワンオペレーション強化による人件費最適化
- ・ 原価率の見直し(仕入先2社以上比較・価格交渉)
- ・ 修繕計画の事前策定(中期設備投資計画を立案)

【Ⅲ】集客・販促戦略

- ・ SNS運用強化(週2回以上投稿/イベント情報・商品情報配信)
- ・ 地元マイクロツーリズム(2時間圏内在住者)向けの割引プロモーション
- ・ 旅行会社向け商品造成(団体旅行・体験型プラン提案)
- ・ SEO対策強化(公式サイト更新頻度向上・地域キーワード対策)
- ・ オンラインショップ売上月商50万円目標設定(ふるさと納税も強化)

【Ⅳ】設備投資・リスク管理

- ・ 温泉施設の循環ポンプ・ろ過装置更新(計画修繕費予算化)
- ・ 年2回の全館点検の実施(事前故障リスク対応)
- ・ キャッシュレス決済比率50%達成(利便性向上とオペレーション簡素化)

【年度スケジュール】

四半期

重点テーマ

4-6月 春フェア、花販売・新商品開発、GW商戦

7-9月 夏イベント(ビアガーデン等)、お盆繁忙対策

10-12月 秋観光シーズン強化、ギフト商戦、年越しそば・年末設備点検

1-3月 冬季集客強化(スキー連携)、春商戦準備・WEB販売・リフト券販売

【まとめ】

第 32 期は、単なる売上拡大ではなく、
「利益率の改善」「固定費最適化」「サービス価値の向上」
を軸とし、持続的な黒字経営を実現することを目的とします。

この目標達成に向け、経営・現場一体となった実行計画を徹底していきます。

予定損益計画

予定損益計算書

自 令和7年4月1日

株式会社 日高振興公社

至 令和8年3月31日

科 目	金 額	額
(営業損益の部)		円
【売上高】		
売 上	242,698,000	
受 託 料 等	3,650,000	
		246,348,000
【売上原価】		
期 首 棚 卸 高	1,353,084	
仕 入 高	109,214,000	
材 料 費	13,591,000	
合 計	124,158,084	
期 末 棚 卸 高	1,353,084	122,805,000
売 上 総 利 益		123,543,000
【販売及び一般管理費】		115,478,000
営 業 利 益		8,065,000
(営業外損益の部)		
【営業外収益】		
受 取 利 息		
雑 収 入		2,000,000
【営業外費用】		
支 払 利 息 等		
雑 損 失		
経 常 利 益		10,065,000

予定販売費及び一般管理費内訳書

自 令和7年4月1日

株式会社 日高振興公社

至 令和8年3月31日

科 目	金 額	円
役 員 報 酬	5,990,000	
給 料 手 当	33,870,000	
退職給与引当金戻入	0	
福 利 厚 生 費	6,500,000	
雑 給	11,448,000	
シ ル バ - 委 託 費	2,300,000	
広 告 宣 伝 費	3,670,000	
運 賃	110,000	
外 注 費	940,000	
燃 料 費	8,300,000	
衛 生 費	5,700,000	
業 務 委 託 費	2,700,000	
一 括 資 産 償 却 費	250,000	
水 道 光 熱 費	13,800,000	
会 議 費	100,000	
事 務 費	1,700,000	
消 耗 品 費	3,000,000	
地 代 家 賃	40,000	
支 払 保 険 料	600,000	
修 繕 費	1,500,000	
租 税 公 課	5,260,000	
減 価 償 却 費	850,000	
接 待 交 際 費	400,000	
旅 費 交 通 費	150,000	
通 信 費	340,000	
支 払 手 数 料	4,783,000	
賃 借 料	450,000	
諸 会 費	520,000	
購 読 費	60,000	
雑 費	147,000	
合 計		115,478,000